

長野県のシダ採集ノート 1

堤 久

H. Tsutsumi: Field notes on ferns from Nagano Prefecture

長野県のシダについては、多くの研究者によって分類地理学的事実が明らかになってきている。私も、シダ愛好家の一人として、採集した標本をもとにして知見を記していきたい。

本稿を草するに当たり、ご指導いただいている国立科学博物館の中池先生に、心からお礼申し上げます。なお、ここで引用された標本は、中池先生の同定を経て国立科学博物館へ納められています。

今回は下伊那教育会出版(1973)の「下伊那の植物(中巻)」に新たに加える種について記します。

1. イワダレヒトシバ *Pyrrosia davidi*(Gies.) Ching

1981年5月25日、南信濃村木沢遠山川沿い(550m)の樹陰の岩壁で珍しいシダを採集した。一見ビロードシダを大きくしたような感じだが、根茎は太く胞子のう群は葉裏面全体に散在している。中池先生に見ていただいたところ、「イワダレヒトツバ」とのこと。イワダレヒトツバはイワオモダカとビロードシダの混生地で見つかる場合が多く、両者の雑種と考えられる個体もあるという。本種を採集した岩壁にも、イワオモダカやビロードシダが着生していた。ごく稀に自生し、志村義雄(1972)「日本シダ植物生態写真集成」には、長野県にも分布していることが記載されているが、「日本のシダ植物図鑑2(1981)」の分布図には、東京1、神奈川1、山梨2、愛知1、岐阜1、和歌山1、熊本1、の八か所が点打されているだけである。

2. フモトシダ *Microlepia marginata* (Panzer)

C. Chr.

1981年7月17日、天竜村不当(300m)のスギ植林に自生していた。イノモトソウ科に属し、80cm前後の単羽状の暖帯性の常緑シダである。旧本のシダ植物図鑑1(1979)には、本県の産地として、軽井沢と平岡が記載されている。

3. キヨスミヒメワラビ *Ctenitis maximowicziana* (Miq.) Ching

1981年7月3日、天竜村の小河内川沿い(300m)のスギ植林で一株だけ見出した。周囲には、ツヤナシノデ、オオバノイノモトソウ、ミヤマイトチシダなどが繁茂していた。本種は、オシダ科に属し葉は葉質で鮮緑色、葉柄、葉軸に褐色の鱗片を密生

している美しい暖帯性の常緑シダである。「日本シダ植物生態写真集成」によると分布域に本県も含まれており、奥原弘人(1971)「木曽谷の植物」には木曽地方の産地が記載されているが下伊那では知られていなかった。

4. ミドリヒメワラビ *Thelypteris viridifrons* Tagawa

本種はオシダ科に属し、ヒメワラビに似るが、小羽片に短い柄がつくこと、小羽片の幅が広いことなどで見分けることができる。「下伊那の植物(中巻)」には記載されていないが、伊那や木曽の南部にやや普通に見られる暖帯性のシダである。私の調査によると、伊那地方では飯田市付近まで、木曽地方では大桑村付近まで見られる。下伊那での採集例は

1981年10月14日 飯田市天竜峡(400m)

1981年7月25日 泰阜村万古(400m)

1981年7月6日 根羽村月瀬(540m)

などがある。

この種を1981年8月22日、長野市村山で採集した。同じような分布を示すヒメワラビが、飯山地方、更埴地方でも採集したので、今後、千曲川沿い、姫川沿いで見い出されよう。

5. ハシゴシダ *Thelypteris glanduligera* (Kunze) Ching

1981年7月17日 天竜村不当(300m)

1981年7月25日 泰阜村万古(400m)

以上の二か所で採集した。オシダ科の高さ30cm内外の繊細なシダである。アカマツ林の林縁や路傍に自生している。木曽地方では「木曽谷の植物」に記載されているが、下伊那では知られていなかった。

6. ムクゲシケシダ *Lunathyrium lasiopteris* var. *kiusianum* (Koidz.) Nakaike

1981年5月26日、泰阜村万古川沿い(500m)で採集、シケシダに似るが葉柄や葉軸に鱗片が密生している。暖帯性のシダで、木曽地方では記録されているが、下伊那地方では、今まで見い出せなかった。

7. タカオイノデ *Polystichum takasasanense* Kurata

1981年11月4日、豊丘村堀越(650m)のヒノキ植林下で採集した。アイアスカイノデとツヤナシノデの雑種であり、母種とともに混生していた。鱗片

は両者の中間の幅を呈し、葉柄下部の鱗片は暗褐色を帯びるものもある。本種は1981年10月26日、駒ヶ根市赤穂（600m）のスギ・ニセアカシヤ林下でも母種と混生しているのを発見している。長野県新産。

なお、母種のツヤナシノデは県下に広く分布しており、アイアスカイノデは、伊那、木曾地方に時々見い出され、長野市、更埴市、大町市にも稀に産する。

8. アイノクマワラビ *Dryopteris* × *mitsuii*

Serizawa

1981年10月20日 喬木村馬場平（500m）

1982年1月28日 天竜村中井侍（350m）

クマワラビとオクマワラビの雑種である。クマワラビに比して、羽片の数が多く子のう群のつく部分が縮小せず、オクマワラビに比して、鱗片は褐色を帯びる。母種のクマワラビとオクマワラビの混生地で見い出される。下伊那の他に、上伊那・木曾・更埴でも採集した。

9. フジオシダ *Dryopteris* × *watanabei* Kurata

1981年11月4日 豊丘村堀越（650m）

1981年5月24日 飯田市天竜峡（450m）

オクマワラビとオシダの雑種である。オクマワラビに比し、葉形は倒披針形で細長く、下部羽片はかなり短縮し葉柄は短い。オシダに比し、羽片は幅広く切込みは深く、裂片間は多少離れ下部裂片は独立小羽片となる。

本種の産地については、本誌9号で大塚氏が報告しているが、上記のように下伊那地方でも採集したので付け加えたい。

10. クマオシダ *Dryopteris* × *tokudai* Sugimoto

1981年10月10日 阿南町南沢（700m）

オシダとミヤマクマワラビの雑種である。オシダに比し鱗片は濃色を呈し裂片の幅は広く、ミヤマクマワラビに比し鱗片は褐色で裂片の幅は狭い。本種の産地として、杉本順一（1963）「長野県植物総目録」によると、「北ア（針木）南ア（小波川、遠山川）」と記載されているが、上記のように採集したので産地を明示します。なお、下伊那地方の他に、木曾・南安曇・小県地方でも採集することができた。

11. オクタマゼンマイ *Osmunda* × *intermedia*

（Honda）Sugimoto

1981年5月23日 飯田市天竜峡東岸（400m）

1981年5月22日 阿南町和知野川（360m）

1981年7月6日 根羽村小戸名川（700m）

ゼンマイとヤシャゼンマイの雑種である。羽軸が葉軸につく角度も、小羽片の形も両親の中間を示しており、容易に見分けることができる。母種のゼン

マイとヤシャゼンマイの生育する谷川に見られ、前者より水に近く、後者より水に遠い、中間的位置に生育している。今までに木曾地方では知られていたが、伊那地方では、私の知る限り見い出されていなかった。

12. メニコウシダ *Thelypteris nipponica* var.

borealis（Hara）Hiyama

1981年6月25日 飯田市二ツ山（620m）

1981年8月15日 飯田市摺古木山（2000m）

1981年8月9日 飯田市大平（1250m）

1981年7月6日 売木村岩倉（920m）

ニコウシダに非常によく似るが包膜に毛が多いことで見分けることができる。山地帯から亜高山帯にかけて見い出されるが、下伊那地方では知られていなかった。

13. エゾメシダ *Athyrium brevifrons* Nakai

1981年8月15日 飯田市摺古木山（2000m）

ミヤマメシダに似るが、鱗片は黒くなく膜質。東北地方では、山地帯のスギ林下でも見られると聞くが、本県では亜高山帯に稀産する。下伊那地方新産。

14. イナノキシノブ（仮称）

1981年7月3日、下伊那郡天竜村福島の道路沿いの石垣に、ノキシノブと隔離分布で注目されているウロコノキシノブが混生していた。「もしや、雑種が。」と気をつけて見ると、他のものより抜きんでて大きい株が目についた。採ってみると、葉身の幅や葉身に宿存している鱗片の量などが両者の中間を示している。中池先生にお見せしたところ、両者が混生して生えていたこと、形態が両者の中間を呈すること、胞子が不整である……等により「ノキシノブとウロコノキシノブの新雑種」と判断していただいた。正式には後に二人で発表したいが、ここで本雑種を「イナノキシノブ」と予報しておきたい。

15. イノデモドキ *Polystichum tagawanum* Kurata

1981年11月4日 豊丘村堀越（650m）

1981年11月5日 飯田市山ノ洞（700m）

1981年10月14日 飯田市天竜峡（400m）

1981年10月14日 泰阜村唐笠駅付近（400m）

1981年7月25日 泰阜村万古（400m）

1981年5月9日 天竜村中井侍（350m）

葉身が狭く先は長く尾状に伸長し、鱗片は著しく細裂する常緑性のイノデである。暖帯性で長野県では、埴科・下伊那・木曾に産する。下伊那の産地については大塚氏（本誌8号）によって、「天竜村坂部」が報告されているが、私も上記のように採集したので付け加えたい。